

それは " 新しい図書館 " です

- 柔軟でいて奥が深い図書館の本質的な機能を引出し、図書館が持つ可能性の多くを実現させる図書館
- 子どもを中心にすべての世代が親しみ交流し、すべての世代が使いたくなる図書館
- 子育てを中心に生活に必要な知識と情報を伝える図書館

それは " 新しい子育て相談センター " です

- これまでの支援センターは施設規模・資料（絵本・紙芝居など）・設備（授乳室・幼児便所・相談室など）・専門スタッフともに揃ったものは設置されていない
- ここでは資料と設備とスタッフが揃い、多様な相談にも対応できる「子育て相談センター」となる
- さらに、子育て支援センターは「未就学児」を主たる対象とするが、この施設はすべての「未成年」を対象とした施設という発展形となる

それは " 市民の自由な活動の拠点 " となる場です

- 「本を読んだり遊んだり学んだり」といったこれまでの限定されたイメージを脱し、市民の様々な活動・交流・くつろぎを許容する場
- 市民が主人公となり、自らが考え学び、そして新たなものを創りだし、多くの市民に発信する場
- 予約などの手続きがなく、自由な時間に気軽に立ち寄って、自分たちの活動を行える場

それは " 文化拠点の中核 " となる場です

- アミューズ豊田の南側には新市民会館が計画されており、これら一大公共施設群の中央に位置することになる中核施設
- 文字通り、文化※の定義にある概念そのままに、文化を伝承し、交流によって発展させる施設
- 次の世代をはぐくみ伝え、それらを発展させ、創造に結び付け、新たな文化活動の拠点となる場

※文化とは （デジタル大辞泉）

人類がみずから手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきた。特に、哲学・芸術・科学・宗教などの精神的活動、およびその所産。

現況の図書館は、図書館機能を各部屋に分けて配置するという設計方針によっているため、改装の自由度が限られています。入り口廻りや屋外利用などにも課題があります。

現況の図書館は、図書館機能を各部屋に分けて配置するという設計方針によっているため、改装の自由度が限られています。入り口廻りや屋外利用などにも課題があります。

入り口廻りや屋外利用などにも課題があります。

屋外空間へは外部から
直接出入りできないように
柔らかなフェンス等が必要

西日除けのため
樹木が密植されているが
フェンスで仕切りは
必要となる

窓のオペレーターが横軸回転であるため
中間期の通風を容易にできない

ロッカー室は
現在使用され

ブックホストは利用者にわかりにくく
管理者からも取り出しにくいづくりに
位置を含む改善が必要

出入口の幅が狭く
広くしたいとの要望あり

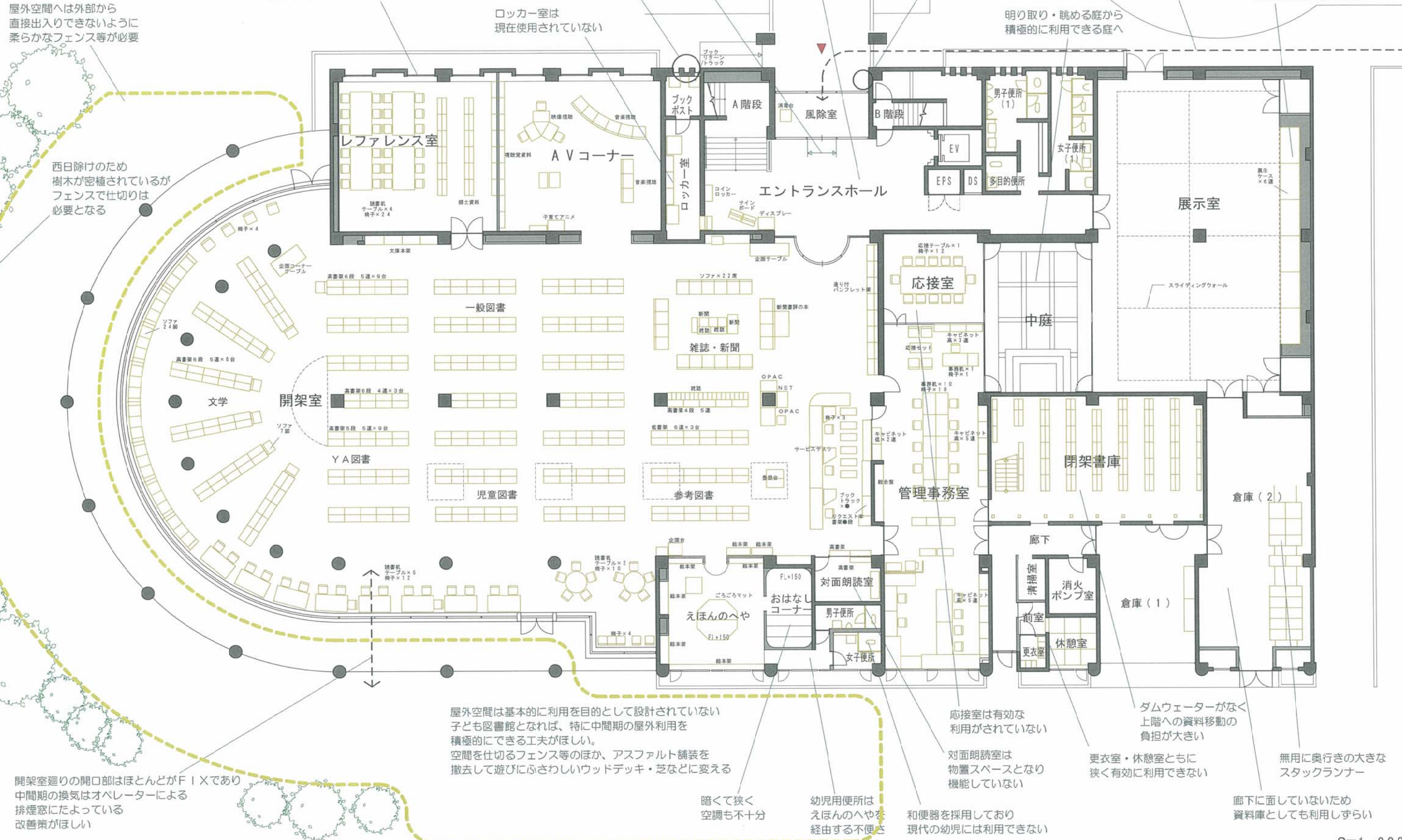
エントランスホールが暗く陰鬱な印象
館内施設のありかが見渡せない

郵便受けの幅が狭く
取り出しも容易ではない

図書館駐車場からのアクセスが遠いうえに
近道では段差があるうえ狭い
アクセスルートの改善が必要

奥行きのある展示ケース
再利用方法を検討したい

明り取り・眺める庭から
積極的に利用できる庭へ



屋外空間は基本的に利用を目的として設計されていない子ども図書館となれば、特に中間期の屋外利用を積極的にできる工夫がほしい。

空間を仕切るフェンス等のほか、アスファルト舗装を撤去して遊びにふさわしいウッドデッキ・芝などに変える

暗くて狭く
空調が不十分

幼児用便所は、えほんのへやを経由する不便さ

応接室は有効な
利用がされていない

対面朗読室は
物置スペースと
機能していない

和便器を採用しており
現代の幼児には利用できない

ダムウェーター
上階への資料移
負担が大きい

更衣室・休憩室ともに
狭く有効に利用できない

無用に奥行きの大きな
スタックランナー

廊下に面していないため
資料庫としても利用しづらい

基本コンセプト

■改修工事範囲の考え方

- 工事費用の概算検討などから、工事範囲は最小限に抑えることが望ましいとの結論が得られています。
- 基本的な改修範囲は1階の開架室廻りのみとし、その他の範囲は空調などの部分的な改修にとどめます。
- 2階は基本的に建築の改修は行いませんが、空調設備と部分的な照明設備の改修を行います。

■ゾーニング計画の考え方

- ゾーニングは複数の検討案から一つに絞り、それをベースとしてそれぞれの施設を配置します。
- 子どもの開架室では子育てエリアと図書館エリアを重ねて、それぞれの機能を融合させるゾーンをつくります。
- YAと成人は一体のサービスを行い、ねびゆくまに収めて、双方が資料を共有できるようにします。
- YA・成人の資料の一部は児童のコーナーに配置し、子育てへの配慮や子供の成長を促すとともに、子ども大人も資料共有をして混じることで、双方の自然な交流やふれあいを促します。

■資料配架の考え方

- 子どもの開架室内の配架は、子育てゾーンから始まって子どもが徐々に成長していく過程をなぞるように、成長に合わせた資料を配架していきます。
- 子どもシアターは開架室の中央付近に置いて子どもの開架室の中心的なイメージの場所とします。
- 子どもの資料は「ほんのこみち」に沿って配置し、サインやお勧めの本を配置できる機能を持った、街並みをイメージさせるパネルを配置して、開架室の賑わいを演出します。
- YA・成人の「ねびゆくま」では壁付き書架を多用し、本に囲まれた落ち着いたイメージを演出します。

■開架室イメージのつくりかた

- 子育てゾーンの利用者は未就学児が中心なので、配色なども華やかな色遣いをし、賑わいを演出します。
- 「こどものま」の児童資料のゾーンは、大人を意識する小学校高学年を意識して落ち着いた配色にします。
- 「ねびゆくま」は成人中心のゾーンですから、彩度を落とした落ち着いた色遣いのある配色とします。
- 全体的にいろいろな色遣いが出てても卑下した印象とならないよう、彩度を落とした色遣いを心がけます。

■ふみぐらいこいまの作り方

- 既存展示室を使用した「ふみぐらいこいま」は、展示室としての需要が高いため、展示室としての機能が生きるよう、可動間仕切りを使用しながら、休憩・飲食・会合・作業など、利用者の創意工夫で自由に使える「フリーゾーン」として提供します。洗い物やお湯をサービスするために便所に隣接した位置に水廻りを用意するほかは、基本的に改装しないで使用します。
- 展示室として広く使用したい場合は、椅子などを片付けて広い展示スペースを確保します。

■2階集会ゾーンの使い方

- 基本的に意匠上の改修は行いませんが、空調設備や照明設備などを加えて快適な環境をつくります。
- 日常的に利用できる集会や会議・学習などの利用を促進するためにソフト面での改善を検討します。

■屋外ゾーンの使い方

- これまで管理上利用できなかった屋外を、あそび・休憩・読書・交流など、様々な目的で利用してもらえるよう、緑化フェンス等で囲むことが第一の計画となります。ウッドデッキや椅子・テーブルを用意し、舗装面は撤去して芝生などに変えますが、遊具などの設置については今後の計画にゆだねます。

■設備計画の考え方

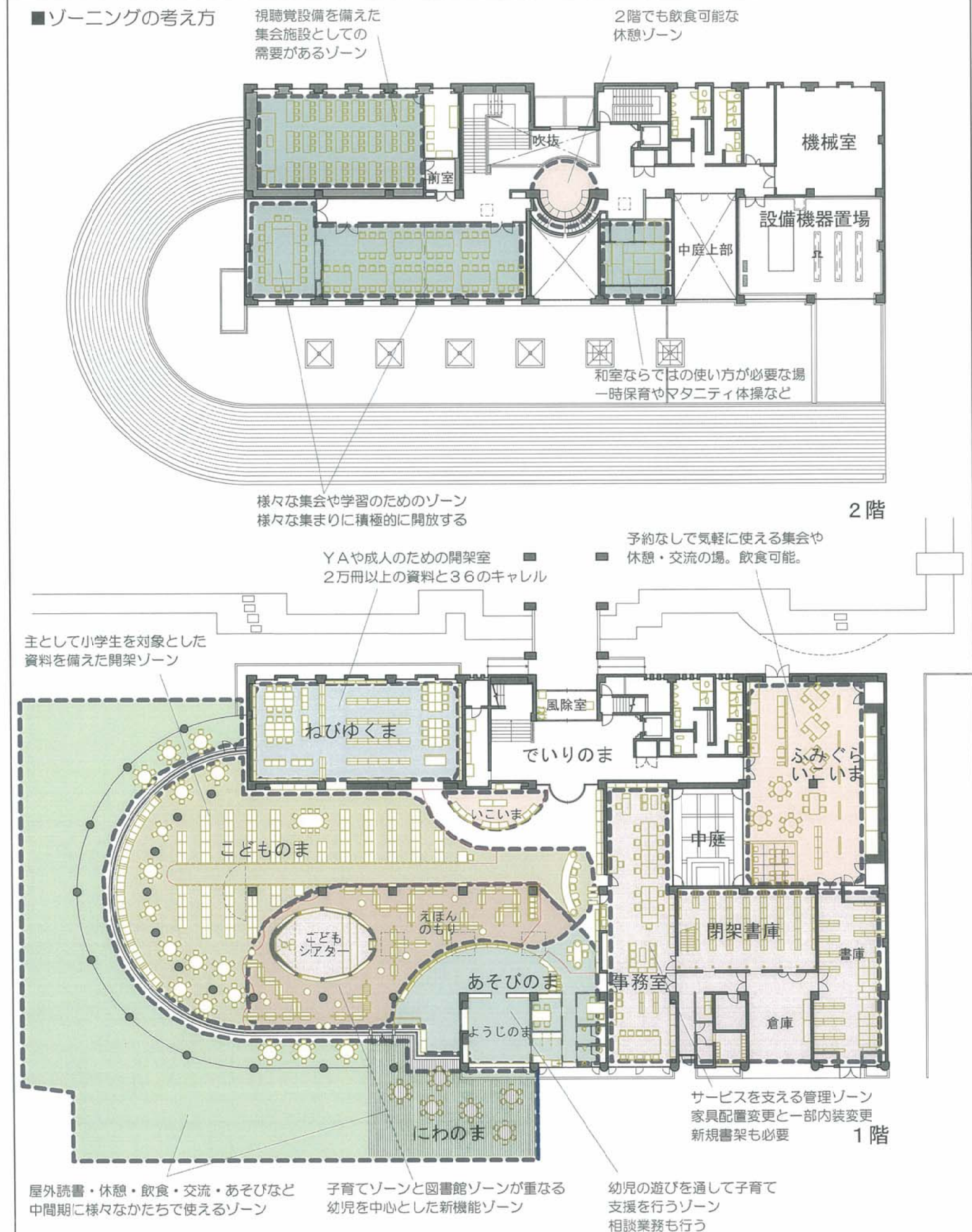
- 劣化した空調設備の更新が中心課題ですが、開架室の雰囲気を変えるためと省エネを図るために、開架室の照明を昼光色の蛍光灯から乳白色のLEDライトに変えるなどの計画を行います。
- 便所の設備の更新や給湯設備の更新など、その他の課題も工事費を調整しながら計画します。

■室名表記について

- 施設名や室名などは、その施設を意識し、利用者に親しんでもらうために命名は重要な課題です。最終的に公募等で定められることとなりますが、計画段階から仮の名称をつけてイメージ共有をはかります。
- 磐田は能の演目「熊野（ゆや）の郷」として知られています。漢字でも横文字でもない「やまとことば」で命名してみました。

- 新施設名：「ふみぐら ねぶ」＝ 成長していく図書館の意味。子どもも若者の成人も図書館で成長していけるイメージ
- ・「こどものま」 児童開架ゾーン
- ・「あそびのま」 子育て支援ゾーン
- ・「ようじのま」 乳幼児の部屋
- ・「子どもシアター」 お話室・催し物の場
- ・「ねびゆくま」 YA・成人ゾーン
- ・「こどものま」 ともに成長しつつある人たちの場
- ・「いこいま」 ラウンジ
- ・「ふみぐらいこいま」 フリースペース
- ※「ねぶ」
- ・成長する・成人になる
- ・おとなびる
- ・年頃になる などの意味

■ゾーニングの考え方



S=1:400